

第5学年社会科学学習指導案

平成28年2月2日（金）第5校時
場所 はつらつルーム

1 小単元名 環境を守るわたしたち（「わたしたちの生活と環境」より）

2 単元について

(1) 児童観

① 事前アンケート調査の結果から

実施日 平成27年12月24日（木）

対象 第5学年

結果 結果は、下記のとおりである。

【設問1】社会科の学習が好きですか。

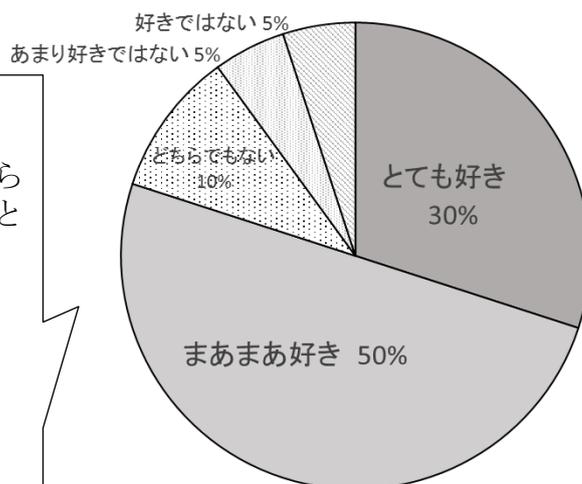
※理由は自由記述、複数回答可。

◎「好き」の理由

- ・いろいろなことを知るの楽しいから
- ・今まで知らなかったことを知ることができるから
- ・目を向けることのなかったことを調べることとおして、社会の学習が好きになったから
- ・生活に関することが詳しくわかるから
- ・働く人の工夫や努力がわかるから
- ・見学が好きだから ・会議が好きだから

▲「好きではない」理由

- ・言葉が難しいから
- ・グラフや地図を読み取るのが苦手だから



【設問2】環境をよりよくするために、わたしたちにできることは、どんなことですか。

※自由記述。複数回答可のため合計は100%にならない。

わたしたちにできること	%
物を大切に使う	38
節電をする	33
リサイクルをする	33
自然を守る	29
木を植える	19
ポイ捨てをしない	19
車に乗らない	14
木をきらない	1
食べ残しを減らす	1
ボランティアに参加する	0.5

【設問3】環境について、もっと調べてみたいことを書きましょう。

※自由記述。複数回答可のため合計は100%にならない。

もっと調べてみたいこと	%
大気汚染、水質汚濁、地球温暖化等の原因	33
森林のはたらき	29
自分にできること	1
環境を守る取組	1
今と昔の環境の変化	1
環境の現状	1
環境の未来	0.5
身近な環境問題	0.5

本学級の児童は、社会科が好きである。特に、自分たちの生活と関連する社会的事象に関心が高い児童が多い。本小単元の展開にあたっては、【設問 3】の結果もふまえ、児童にとって関心の高い事例を教材化していく。一方、資料を読み取ることが苦手な児童もいるので、資料を読み取る際には個別指導を行っていく。

本学級の児童は、これまでに、さまざまな教科や総合的な学習の時間で、環境について学習してきている。また、今年度は、社会科のすべての単元で「かやま環境会議」を開き、わたしたちにできることを考えてきている。【設問 2】から、これまでの学習をとおして、わたしたちにできることを考えることができていることがわかる。

そこで、本小単元では、「わたしたちにできることは、もっとあるのではないか」という視点から、考えを深められるようにするとともに、実際に行動できることを考えていけるようにしていく。また、他者に伝えることも社会参画のひとつであるという視点から、わたしたちにできることを「かやま環境宣言」にまとめ、他学年の児童へ発信していく活動を取り入れる。さらに、「小学生にできなくても、大人にはできることもある」という視点から、環境宣言に「大人へのお願い」を盛り込み、保護者や地域の方へ発信していく活動へと広げていきたい。

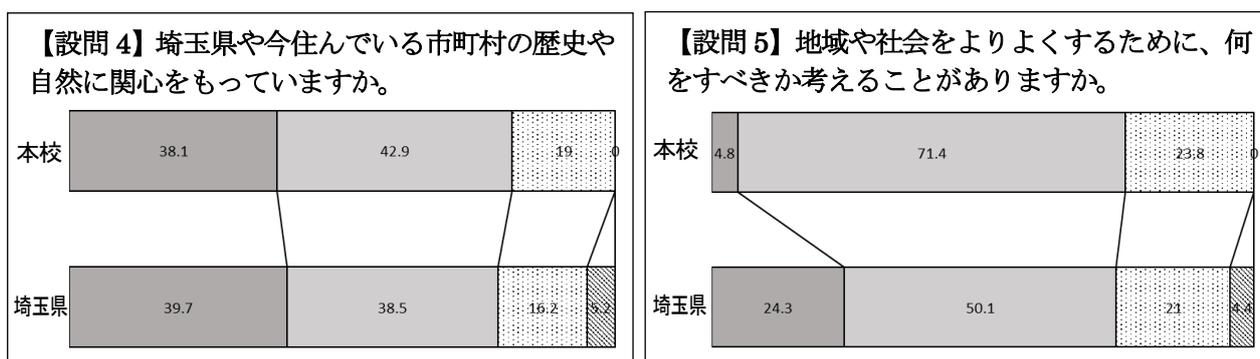
② 平成 27 年度埼玉県学力学習状況調査の結果から

実施日 平成 27 年 4 月 16 日

対象 第 5 学年

結果 結果は、次のとおりである。

※数値は%を表す。左から「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」を表す。



【設問 4】から、本学級の児童は、身近な地域の自然に関心をもっていることがわかる。本小単元では、身近で具体的な事例を教材化することで、地域の自然への関心をさらに高めていく。また、【設問 5】から、本学級の児童は、地域や社会をよりよくするために、何をすべきか考えていることがわかる。本小単元では、社会参画の視点をもった授業を行うことで、「環境をよりよくするために、自分にできることは、～だ」と考えたことを表現できるようにし、さらに実生活において行動しようとする意欲を高めていく。

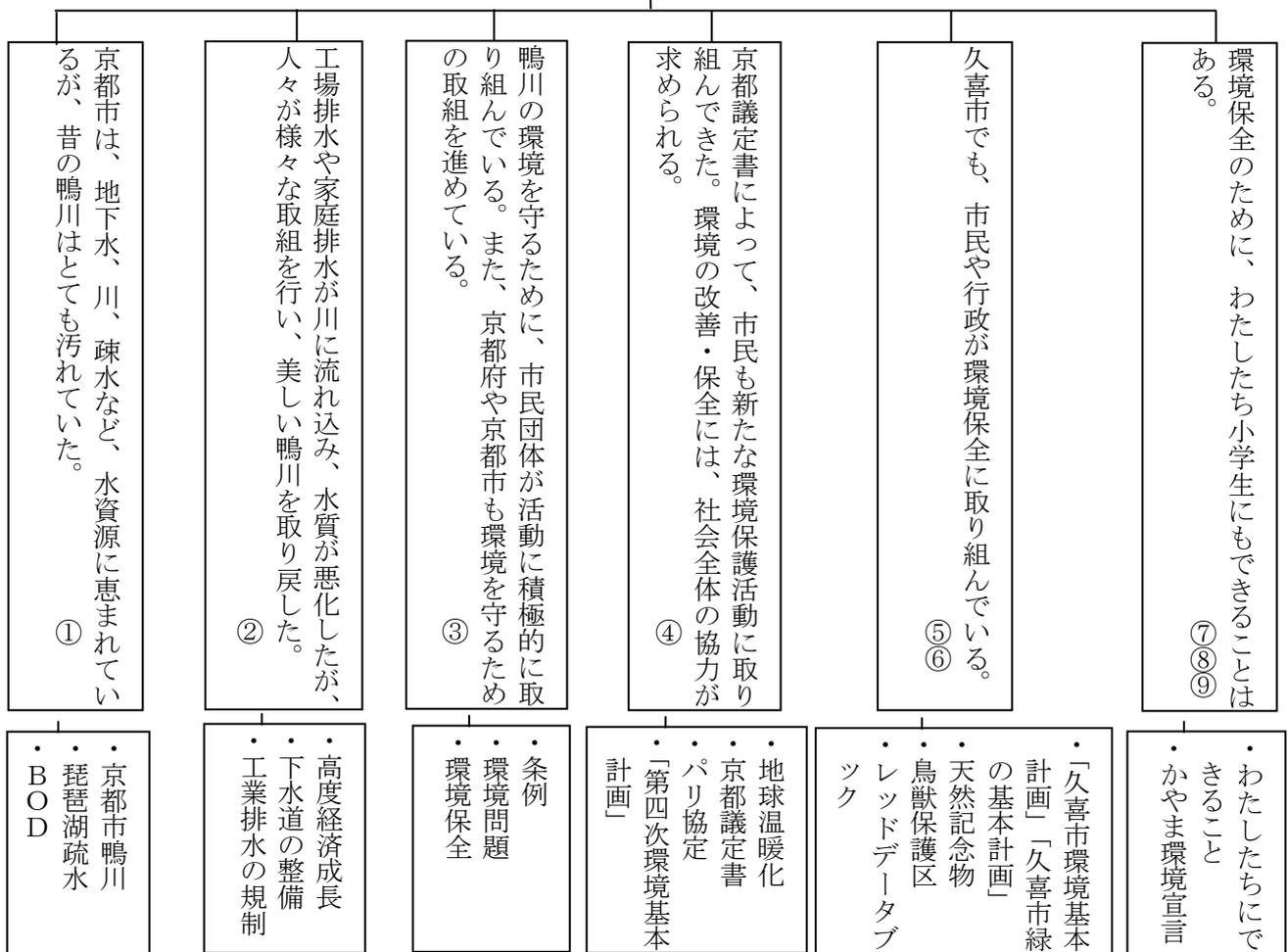
(2) 教材観

① 知識の構造図 ー第5学年「環境を守るわたしたち」ー

〔学習指導要領の「内容」との関連〕

- 内容(1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。
- イ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ

【中心概念】 公害から国民の健康や生活環境を守るための取組が、市民や行政の協力のもと進められている。また、国土の環境はわたしたちの生活と密接な関係があり、環境保全を図るために、わたしたち一人一人の協力が必要である。



第1～4時では、教科書にある京都の鴨川の事例から、市民や行政が協力して美しい鴨川を取り戻したことや、京都議定書から世界全体でよりよい環境をつくるための努力していることを学習する。その後、「久喜市ではどうなのか」と身近で具体的な事例に目を向けていく。第5時には、久喜市役所の元職員から、久喜市の環境に関する取組をうかがう。第6時には、専門家とともに地域の自然環境を現地調査する。第7時には、これまでの学習をもとに、環境保全を図るためにわたしたちにできることや、他学年の児童や大人へ伝えたいことをグループで話し合う。そして、第8時(本時)には、グループで話し合ったことを提案し、学級全体で「かやま環境宣言」にまとめていく。提案発表には、専門家や市役所元職員らが参加し、児童とともに話し合う。さらに、第9時には、他学年の児童に「かやま環境宣言」を伝える。

② 身近で具体的な事例の教材開発

第5時からは、「環境を守り活かすために、久喜市の人々は、どんなことをしているのか。また、わたしたちには、どんなことができるのか。」という新たな問いで学習を進める。「久喜市環境基本計画」（平成25年3月）には、「平成34年度の温室効果ガス排出量を平成21年度から25%削減」という目標が掲げられている。児童も「エコライフDAY・チェックシート」を活用し、各家庭で二酸化炭素削減に取り組んだ経験がある。

しかし、二酸化炭素は目に見えず、「25%削減」は児童にとってとらえにくいと考える。地域の環境を守り活かすことが、二酸化炭素排出量の削減にもつながるととらえることで、児童は具体的に考えを深めていけるのではないかと考えた。そこで、学区内にある神明神社をシンボルとし、地域の環境を守り活かすという視点から教材化を図った。

ア 学区内の神明神社について

神明神社の社叢は、県の天然記念物に指定されており、アカシデ群落は消滅の危機があるとして県のレッドデータブックに載っている。同じく県のレッドデータブックに載っているオオタカの巣が確認されたため、平成27年11月、鳥獣保護区に指定された。

神明神社は、児童が学習や遊びでよく訪れ、愛着のある場所である。神明神社をシンボルとすることで、地域の環境を守り活かすことを、具体的に考えられるようにしていく。さらに、天王山塚古墳、栢間赤堀、弁天沼といった、地域全体の環境保全にも視野を広げていけるようにする。

イ 「久喜市環境基本計画」（平成25年3月）・「久喜市緑の基本計画」（平成26年11月）

「久喜市環境基本計画」も「久喜市緑の基本計画」も、児童にとっては難しい。取り上げることを精選し、簡単なことばで伝えられるようにしていく。

「久喜市環境基本計画」からは、「平成34年度の温室効果ガス排出量を平成21年度から25%削減」という目標や、具体的な方策を取り上げる。「久喜市緑の基本計画」からは、市が取り組むこととともに、市民・事業者が取り組むことも記されていることを取り上げる。これらのことから、行政と市民が協働のまちづくりをしていることをおさえ、よりよい環境をつくるために社会全体で努力していることをとらえていく。

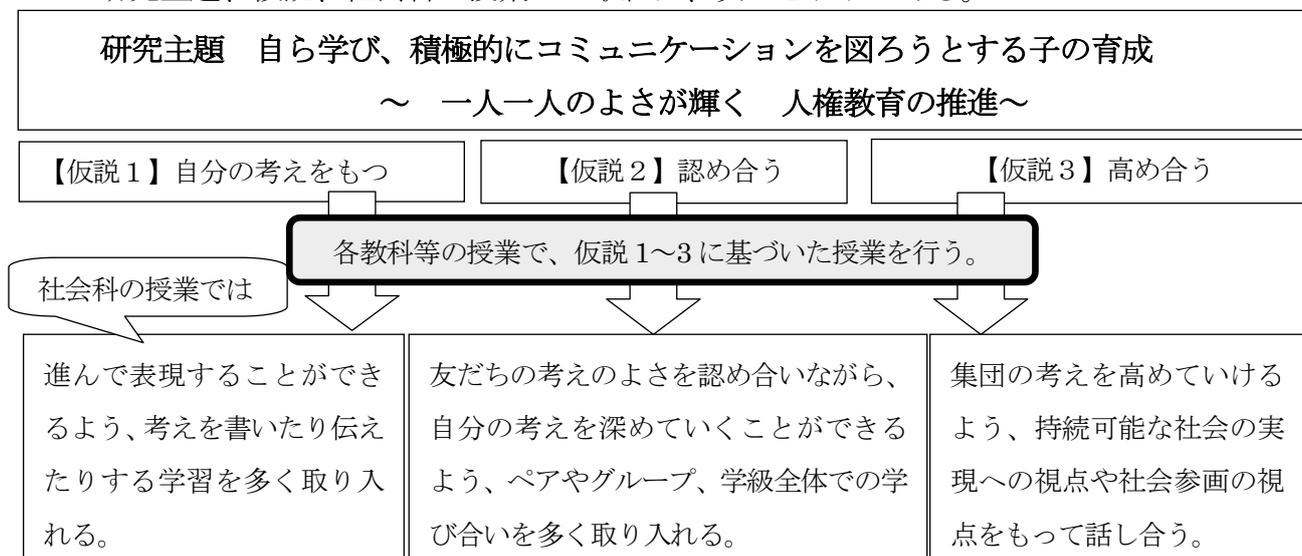
また、「久喜市緑の基本計画」からは、神明神社付近を「緑の拠点」、弁天沼付近を「水の拠点」、県道12号を「緑の軸」、栢間赤堀を「水の軸」とし、「人と自然が共生しながら、屋外で憩い集える水と緑のまちづくり」を目指していることを取り上げる。

このように、神明神社をシンボルとしながらも、地域全体に視野を広げ、さらには久喜市や日本、世界全体の環境保全へも視野を広げていけるようにする。

(3) 指導観

① 本校の校内研修について

本校では、平成 26・27 年度、久喜市教育委員会の委嘱を受け、人権教育を推進している。研究主題、仮説、社会科の授業での取組は、次のとおりである。



② 社会科の授業について

私の授業実践のキーワードは「つながり」である。

- ア 多様な他者とのつながり
- イ 学習内容のつながり
- ウ 授業のキーワードとしてのつながり

ア 多様な他者とのつながり

私は、多様な他者とのつながりを豊かにすることで、思考力・判断力・表現力等を高めるとともに、社会参画への意欲を高めることができると思う。そこで、本小単元では、児童同士だけでなく、児童と専門家や市役所元職員など、多様な他者に関わる活動を多く取り入れていく。第 8 時（本時）には、専門家や久喜市役所元職員などに参加していただき、ともに考えていただく。それぞれの立場から御発言いただくが、児童も市民ととらえ、対等に対話していただけるよう、事前をお願いしておく。

児童同士のつながり

本小単元では、第 7 時にはグループで、第 8 時には学級全体で話し合いを行う。

第 7 時の話し合いの前に、自分の考えを書く時間を設ける。書くことができない児童には個別指導を行い、どの児童も自分の考えをもってグループでの話し合いに臨むことができるようにする。グループの話し合いでは、持続可能な社会の実現への視点や社会参画の視点をもって、話し合うことができるよう支援していく。

学級全体の話し合いでは、友達と自分の考えを比較・関連・総合できるよう支援していく。また、児童と児童の発言をつなぎ、深めていける発問を意識していく。さらに、

グループでの話し合いの様子やワークシートの記述等から、一人一人の考えを把握し、意図的に指名できるようにしていく。

専門家（さいたま緑の森博物館職員）のAさん

1月の社会科見学で、さいたま緑の森の博物館へ行く。児童は「森林を大切にすることは木を伐らないこと」と考えているが、適切な管理をすることの必要性や森林資源を活かしていくことの重要性にも気づけるようにしていく。また、Aさんから「環境保全を図るために自分にできることは、自然の素晴らしさを人に伝えることだと考え、インタープリターになった」との話をうかがう。「節電やリサイクル以外にも自分にできることはあるのかもしれない」と、新たな視点から考えを深めることができるようにしていく。

久喜市役所元職員のBさん

Bさんには、1月に御来校いただき、「久喜市環境基本計画」や「久喜市緑の基本計画」を中心に、久喜市の環境に関する取組をお話していただく。Bさんのお話から、行政と市民が協働のまちづくりをしていることをおさえ、よりよい環境をつくるために社会全体で努力していることをとらえることができるようにしていく。

学生（埼玉大学教育学部）3名

1月から継続的に授業に参加し、話し合いではグループに入って、新たな視点から意見を述べていただく。また、大学生は大人に近い存在であることから、環境宣言に盛り込む「大人へのお願い」についてアドバイスをいただく。さらに、環境保全を図るために大学生にできることを話していただく。これらのかかわりをおして、多様な視点から考えを深めるとともに、考えを整理していくことができるようにしていく。

専門家（埼玉県生態系保護協会）のCさん

本小単元では、神明神社で現地調査を行う。その際の案内人が公益財団法人・埼玉県生態系保護協会のCさんである。現地調査をおして、新たに「環境」の視点から神明神社をとらえ直すことができるようにしていく。

他学年の児童との学び合い

本小単元でつくった環境宣言を、第4学年の児童に伝える。第4学年の社会科では、飲料水の確保や廃棄物の処理について学習するので、これらの学習を関連付けていく。第5学年の児童にとっては、社会参画の場になるとともに、第4学年の児童にとっては、上級生の考えを聞き、自分の考えを深める機会となる。さらに、第4学年の児童から環境宣言への意見をもらうことで、互いの考えがより深まっていくと考える。

イ 学習内容のつながりについて

各単元の学習内容をつなぐ

第5学年の単元の学習内容を「環境」という視点でつなぐことに挑戦した。大単元の「生かす」過程の2時間で「かやま環境会議」を行った。環境会議では、単元の学習内容を発展させ、取り上げるテーマを工夫してきた。そして、本単元「わたしたちの生活と環境」へとつながるようにした。児童の思考は、単元が終わるごとにとぎれてしまいがちであるが、環境会議を継続することで、前単元で考えたことを生かしながらかえを深めることができるようになってきている。

回	月	単元名	テーマ	児童と導き出したまとめ
第1回	6月	わたしたちの国土	サンゴ礁を守るために、わたしたちにできること	人間はつながりの一部であり、自然に支えられている。だから、世界中で自然環境全体を守っていかなければならない。世界の一員としてわたしたちにできることをしていくことが大切である。
第2回	10月	わたしたちの生活と食料生産	地球とつながるわたしたちの「食」	わたしたちの食生活は、日本や世界全体の環境、未来の環境とつながっている。だから、一人一人が食生活を見直し、食料生産の課題を解決していくことが大切である。
第3回	12月	わたしたちの生活と工業生産	工場で働く人が環境に関する活動をしているわけ	持続可能な社会をつくるために、社会全体で努力していく必要がある。だから、工場で働く人も環境に関する活動をしている。社会の一員としてわたしたちもできることをしていく必要がある。
第4回	1月	わたしたちの生活と環境Ⅰ	※森林に関すること	
第5回	2月	わたしたちの生活と環境Ⅱ	※本時	

既習を生かし、中学校の学習へとつなぐ

本単元の学習内容を小学校社会科の「環境」に関わる学習のまとめととらえ、既習事項を生かした学習となるようにしていく。また、中学校の学習内容を視野に入れた指導を行い、中学校の学習へとつなげることができるようにしていく。

【第3・4学年】内容(3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。

イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること。

飲料水の確保については、需要の増加に対して、水源を確保・維持するために森林が保全されていること、ダムや浄水場などの建設が計画的に進められていること、それらの対策や事業は他の市や県の人々の協力を得ながら行われていること、地域の人々も節水や水の再利用などに協力していることを取り上げることが考えられる。

【第5学年】内容(2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。

ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

水産業については漁業技術の改善に努めるとともに、水産資源の保護、育成を図るために栽培漁業などに取り組んでいることを取り上げることが考えられる。

内容(3) 我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き

原材料の確保や製造の過程、製品の販売や消費地への輸送、新しい技術の開発、資源の有効な利用と確保、環境保全への取組などに見られる工夫や努力を取り上げることが考えられる。

既習を生かす

【第5学年】内容(1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

ウ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ

産業の発展、生活様式の変化や都市化の進展などにより増加した廃棄物の不適切な処理の結果として人々に有害な影響を及ぼす公害が発生し、国民の健康や生活環境が脅かされてきたことや、関係の諸機関をはじめ多くの人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られていることなどを取り上げることが考えられる。

エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

森林資源の働きと国民生活とのかかわりについては、国土の土地利用全体に占める森林面積の割合や森林の分布の現状、国土の保全や水資源の涵養などの森林資源の働き、森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力などを取り上げることが考えられる。

中学校の学習へとつなぐ

【中学校・地理的分野】内容(2) イ

(7) 自然環境

世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。

(8) 資源・エネルギーと産業

世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる。

内容(2) ウ

(7) 自然環境を中核とした考察

地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。

(8) 環境問題や環境保全を中核とした考察

地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

【中学校・公民的分野】内容(4)

ア 世界平和と人類の福祉の増大

(※略) 地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。

イ よりよい社会を目指して

持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる。

学習指導要領社会科の目標：公民的資質の基礎を養う。

ウ 授業のキーワードとしての「つながり」

これまで、「社会参画」や「持続可能な社会」というキーワードを意識して授業をしてきた。その結果、児童は「つながり」というキーワードを導き出している。環境とわたしたちの生活とのつながり、行政や市民などいろいろな人が協力しあっているというつながり、未来へのつながり等である。これまでの学習をとおして、「社会全体でよりよい社会の実現に向けて努力していくことが大切であり、小学生にもできることはある」ということは、おさえることができつつある。

本時は、これまでの学習のまとめとして「かやま環境宣言」をつくり、他学年の児童や大人へ発信していく。どのような内容を盛り込むかは、児童の考えを生かすことを基本とするが、教師側も右記のような案をもっているものとする。本小単元の学習が、継続的な社会参画のきっかけとなるようにしたい。

【かやま環境宣言（案）】

わたしたちは、栢間のすばらしい自然環境を未来につなげるため、次のことを行っていくことを宣言します。

○休み時間や移動教室の時には、必ず電気を消します。

○教室の冷房は28度に設定するように呼びかけます。

○給食は残さず食べます。

○物は、買う前に必要かよく考えてから買い、大切に使います。

○ゴミをしっかりと分別します。

○自然の中で遊ぶ機会を増やし、その楽しさを後輩に伝えていきます。

〈大人へのお願い〉

○できるだけ環境にやさしい商品を買うようにしてください。

○できるだけ車を使わず、徒歩や自転車での移動を心がけてください。

平成 28 年 2 月 2 日

久喜市立栢間小学校 5 年一同

3 単元の目標と評価規準

国土の環境保全の重要性について、各種の基礎的資料を活用したり、見学やインタビューしたりして調べ、公害から国民の健康や生活環境を守るための取組が市民や行政の協力のもと進められていることが分かり、国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていることを考えるとともに、環境保全を図るために、わたしたち一人一人の協力が必要であることを考える。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
国土の環境保全の重要性に関心を持ち、それらについて主体的に調べ、わたしたち一人一人の協力が必要であることを考えようとする。	国土の環境保全の重要性について、学習問題をつかんで追究し、国土の環境が人々の生活と密接な関連をもっていることを考えるとともに、環境保全を図るために、わたしたち一人一人の協力が必要であることを考え、言語などで適切に表現している。	公害から国民の健康や生活環境を守るための取組について、各種の基礎的資料を活用したり、見学やインタビューしたりして調べ、ワークシートや提案資料にまとめている。	公害から国民の健康や生活環境を守るための取組が市民や行政の協力のもと進められていることについて理解している。

4 小単元の指導計画（9時間扱い）

○内の数字は時間を表す

関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：観察・資料活用の技能 知：知識・理解

	学習活動・学習内容	学習活動に即した評価規準 〈評価方法〉
つかむ	<p>① 地図や写真、グラフから分かることを出し合い、学習問題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都市は地下水、川、疎水など水資源にめぐまれていること ・鴨川の水質汚染があったこと ・学習問題をつかむこと <p>学習問題 京都の人々は、鴨川をどのようにきれいにし、どのように守っているのでしょうか。</p>	<p>関 環境保全の重要性に関心をもっている。〈発言・ワークシート〉</p> <p>思 各種の基礎的資料を活用しながら、環境保全の重要性について考え、学習問題をつかんでいる。〈発言・ワークシート〉</p>
調べる	<p>② 鴨川の汚染の原因や、美しい鴨川を取り戻すための人々の努力について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済成長とともに工場排水や家庭排水が川に流れ込み、水質が悪化したこと ・市では、下水道の整備や工場排水の規制をしたこと ・友禅あらい職人は、川の水を汚さない工夫をしたこと ・人々が協力しあい、改善に向けた努力をした結果、美しい鴨川を取り戻したこと 	<p>技 各種の基礎的資料を活用しながら、鴨川の汚染の原因や美しい鴨川を取り戻すための人々の努力を調べ、ワークシートにまとめている。〈ワークシート〉</p>
	<p>③ 美しさを取り戻した鴨川に人々が集まるようになって生じた問題や、それに対する市民や自治体の取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々が集まるようになって生じた問題があること ・「鴨川を美しくする会」が清掃活動や啓発活動に取り組み、多くの市民が協力してきたこと ・「鴨川を美しくする会」は、次世代に保全活動を継承していくことをねらいに、平成25年に鴨川納涼や合同クリーンハイクの開催をやめたこと ・京都府による鴨川条例や、京都市による景観政策の実施など自治体の取組があること 	<p>知 公害から国民の健康や生活環境を守るための取組が市民や行政の協力のもと進められていることについて理解している。〈発言・ワークシート〉</p>

<p>④ 環境をよりよくするための市民の取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国別の二酸化炭素排出量は、日本が第5位であること ・家庭からの二酸化炭素の排出量は増えていること ・環境保全を図るために、社会全体で努力していくことが重要であること ・わたしたち一人一人の協力が必要であること 	<p>思 環境保全を図るために、わたしたち一人一人の協力が必要であることを考え、言語などで適切に表現している。〈発言・ワークシート〉</p>
<p>学習問題の結論 京都の人々は、みんなで協力しあって、鴨川をきれいにし、守ってきた。環境をよりよくするために、わたしたち一人一人の協力が必要である。</p>	
<p>新たな問い 環境を守り活かすために、久喜市の人々は、どんなことをしているのでしょうか。また、わたしたちには、どんなことができるのでしょうか。</p>	
<p>⑤ 久喜市の環境保全を図るための取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久喜市では、二酸化炭素の排出量を 25%減らすという目標をつくっていること ・「環境基本計画」や「緑の基本計画」をもとに、行政と市民が協働のまちづくりをしていること ・わたしたち小学生も、市民としてできることをしていくことが大切であること 	<p>技 各種の基礎的資料を活用したり、ゲストティーチャーにインタビューをしたりして久喜市の取組について調べ、ワークシートにまとめている。〈ワークシート〉</p>
<p>⑥ 神明神社の自然環境を調べる。(現地調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の天然記念物に指定されており、アカシデ群落は消滅の危機があるとしてレッドデータブックに載っていること ・県の鳥獣保護区に指定されており、レッドデータブックに載っているオオタカの巣があること ・近くには、天王山塚古墳、栢間赤堀、弁天沼など豊かな自然環境が残されていること ・地域全体の自然環境を守っていくことが大切であること 	<p>技 見学をしたり、ゲストティーチャーにインタビューをしたりして久喜市の取組について調べ、ワークシートにまとめている。〈ワークシート〉</p>

ま と め る ・ 生 か す	<p>⑦グループごとに、環境保全を図るためにわたしたちにできることや、他学年の児童や大人へ伝えたいことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの「かやま環境会議」で話し合ったこと ・京都市の人々の環境に関する取組 ・久喜市の人々の環境に関する取組 ・わたしたちにできることを話し合うこと ・他学年の児童や大人へ伝えたいことを話し合うこと 	<p>技 調べたり考えたりしたことを提案書にまとめている。〈発言・提案書〉</p> <p>関 国土の環境保全を図るためには、わたしたち一人一人の協力が必要であることを考え、わたしたちにできることを考えようとしている。〈ワークシート・発言〉</p>
	<p>⑧学級全体で、環境保全を図るためにわたしたちにできること（<small>本時</small>）や、他学年の児童や大人へ伝えたいことを話し合い、「かやま環境宣言」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合ったことを提案すること ・他のグループの発表から、自分の考えを深めること ・わたしたちにできることを話し合うこと ・他学年の児童や大人へ伝えたいことを話し合うこと ・「かやま環境宣言」にまとめること ・「〇〇（自分）の環境宣言」をすること 	<p>思 環境保全を図るために、わたしたち一人一人の協力が必要であることを考え、言語などで適切に表現している。〈ワークシート・発言〉</p>
	<p>⑨「かやま環境宣言」を第4学年の児童に伝えるとともに、第4学年の児童とともに、環境保全を図るためにわたしたちにできることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かやま環境宣言」を第4学年の児童に伝えること ・第4学年の児童の考えを聞くこと ・自分の考えをさらに深めること 	<p>思 環境保全を図るために、わたしたち一人一人の協力が必要であることを考え、言語などで適切に表現している。〈ワークシート・発言〉</p>

5 本時の展開（本時 8／9時）

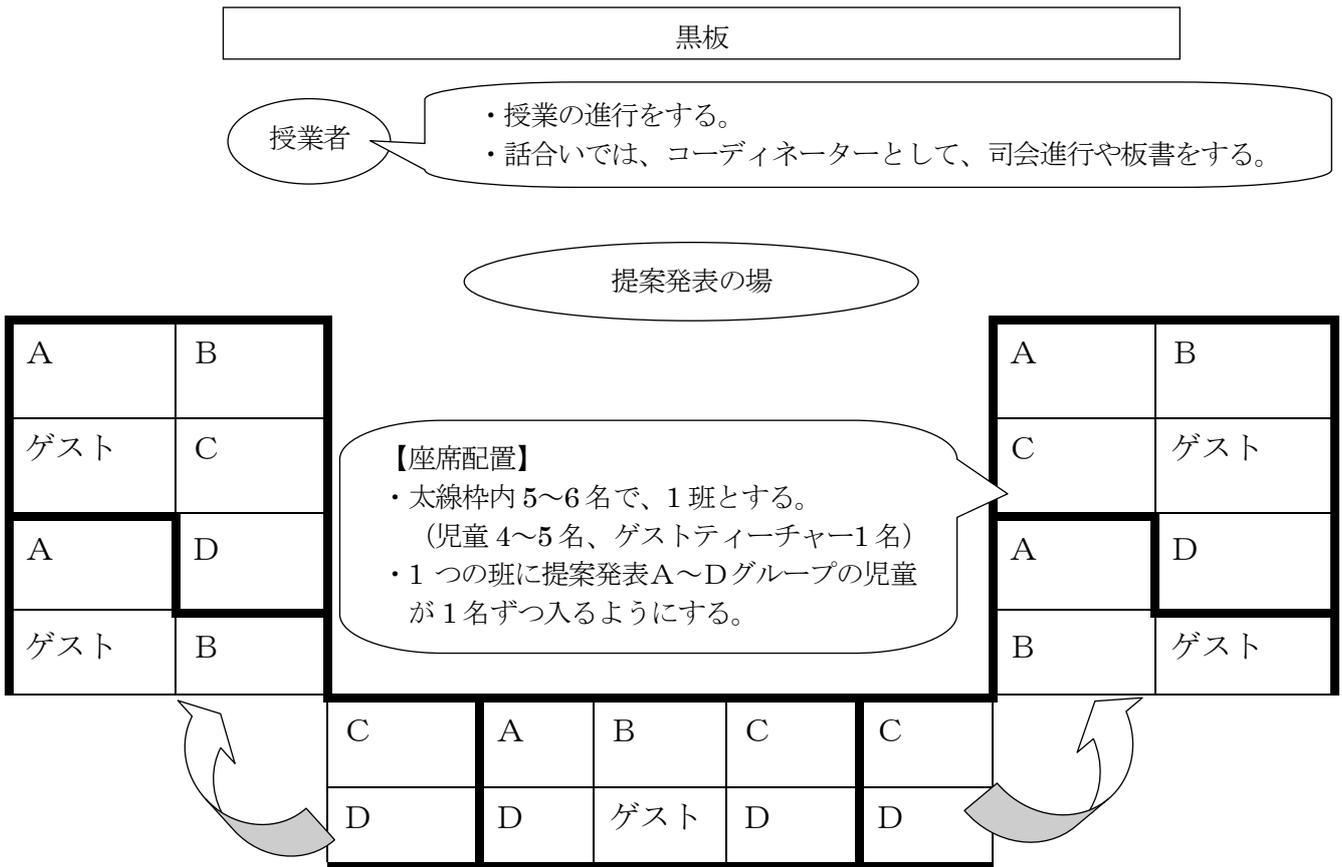
（1）目標

○環境保全を図るためには、わたしたち一人一人の協力が必要であることを考え、言語などで適切に表現する。（社会的な思考・判断・表現）

（2）展開

学習活動	学習内容	指導と評価の工夫	時間
1 本時のめあてを確認する。	○本時のめあてをつかむこと ④ 環境を守り活かすために、わたしたちにできることや、他学年の友達や大人へ伝えたいことを話し合い、「かやま環境宣言」をしよう！		1
2 グループで考えたことを提案する。	○グループで考えたことを提案すること ○他のグループの発表から、自分の考えを深めること	○教師はコーディネーターとして、司会進行や板書を行う。児童が他のグループの発表に対し、自分のグループの提案と比較・関連・総合して、質問したり意見を言ったりできるように支援する。 ○各グループの発表のよさを認め、社会参画への意欲を高める。	20
	① グループの提案発表 ② 提案に対する質問・意見（班→学級全体） ※①・②で5分×4グループ=20分		
3 わたしたちにできることや、他学年の友達や大人へ伝えたいことを話し合う。	○わたしたちにできることを話し合うこと ○他学年の児童や大人に伝えたいことを話し合うこと ○「かやま環境宣言」にまとめること	○話し合いでは、これまで学習したことを生かして、発言できるよう支援する。 ○実際に行動できることを具体的に考えていけるよう支援する。	19
<p>評環境保全を図るためには、わたしたち一人一人の協力が必要であることを考え、言語などで適切に表現している。【社会的な思考・判断・表現】〈ワークシート・発言〉 →表現できている児童には、他のグループと自分のグループの提案を比較・関連・総合して表現できるように支援する。さらに、継続して社会参画していけるよう励ます。 →表現できていない児童には、他のグループの提案を聞いて、考えたことを表現できるように支援する。また、提案書のよさを称賛し、社会参画への意欲を高める。</p>			
4 「〇〇（自分）の環境宣言」をする。	○「〇〇（自分）の環境宣言」をすること	○これまでの学習を振り返り、自分が継続して取り組むことができそうなことを記入する。 ○本時の学習が、継続的な社会参画のきっかけとなるようにする。	5

【教室配置図】



【板書計画】

